

かれた大坂夏の陣までを
紹介する。
現地取材をベースに精
密3DCG(コンピュータ
ターグラフィックス)で
再現する、壮大な戦国絵
巻だ。
(双葉V文庫 700
円)

デイズニーランドの秘密

有馬 哲夫著

東日本大震災の時、来場者を通じて誘導し接遇したことさらに評価を上げた東京デイズニーランド。徹底してイメージを守り抜く姿勢やスタッフ教育など、デイズニーランドの人気を支えるシステムは、以前から幾度となく紹介されてきた。

本書も一種の「デイズニーランド本」ではあるが、経営や人材教育、そして単なる施設ガイドとは全く趣を異にするものである。

本書を貫くテーマは、デイズニーランドの持つ「ストーリー性」だ。アイルランド移民を祖父に持つ創設者のウォルト・デイズニーは、少年時代から各地を転々とする中で、鉄道に強いあこがれを抱いていた。著者は、アナハイムにあるオリジナルのデイズニーランドをベースにしながら、ウォルトが本来作ろうとしたのは「交通博物館」のようなものであり、彼は鉄道と蒸気船を中心とした

『日本人が知らない藤本音』
アメリカは決していい。ピンラディン殺害わった世界のパワーバ相とは何か。また、3た「トモダチ作戦」のか……。

悪化し続けるアメリカの正体とそれがもたは——。環太平洋連携P) 推進で垣間見える業界の思惑。そして、日本に核武装すら求めか。これからのアメリカ、軍事の行方がはっ

★毎日新聞社から、日本ふみこ著『まないた手帖』 やりたことは、いつからだってできる。人生の小さな目標も、ずっと作ってみたかった料理も。楽しくも心にしみる日々のあれこれ綴ったエッセー。わたしの料理ノート「乾物篇」付き。

「ストーリー性」からの楽しみ方

開拓時代を思わせるこのテーマパークの風景の中に、おじいさんから自分に至るまでの時代を追体験したかったのだ、と述べている。もちろん設立の動機だけではない。デイズニーランドのすべてのアトラクションはそれぞれ、そこに存在する理由とストーリーを持っているという。

例えば「アメリカカ河」「蒸気船マークトウェイン号」「トムソーヤ島」はいずれも、ミシシッピ川の河川交通を下敷きとして、アメリカ人の心の琴線に触れる傑作を生み出したマーク・トウェインを想起させるものだ。

ウォルトの死後作られ、スリルあふれる乗り物として人気の「ビッグサンダー・マウンテン」や「スプラッシュ・マウンテン」も例外ではない。すべてアメリカの歴史や、アメリカ人なら誰でも知っている物語を背景に持っているのである。

新潮新書 735円

歴史や文学といった観点からデイズニーランドの持つストーリーに迫る本書は、アトラクションで遊ぶこと以外にも「大人の知的な楽しみ方」があることを教えてくれる好著である。

辻川みのり

地域ブランドを引き出す力

金丸 弘美著

小売り市場に並ぶ加工食品、インスタント食品、ファストフードに囲まれた現代人の食生活は、生活習慣病をもたらし、また、偏食、個食が人の健康ばかりか精神の健全性をも損なうとも言う。

では、どのような食べ物が本当に良い食べ物なのか教えてくれるのが本書であり、良い食べ物のある地方の地域力の可能性に着目している。食総合プロデューサーの著者は全国を駆け回り、地域に根付いた食文化を再発見し、それを地域のブランド力として広く世に売り出す可能性を引き出そうと努力している。

過疎・高齢化に悩む地方だが、良いものは地方の伝統的な手作りの農産物や、地元で採れる食材を用いた料理である場合が多い。多くの成功例を紹介しながら、地域を元気にする方法を伝授している。(合同出版 1470円)



ビジネス

詳説 不正調査の法律問題

小林総合法律事務所編、小林英明代表執筆

企業のコンプライアンス(法令遵守)が重視される現代、万が一不祥事が起きたとき、企業はどうするか。その対応次第で企業の命運が左右されることもある。実際、三菱自動車のリコール隠蔽事件、雪印乳業の集団食中毒事件など、その対応のまずさが企業を存亡の危機にまで追い込んだ例もある。

不祥事が発生したとき、企業自らが調査を行うって、事実を正確に知ることが対応の第一歩。些細と思われる事件でも、十分な調査と適切な対応を怠ると大事件に発展する可能性がある。

本書は、企業のコンプライアンスに関するアドバイスとともに不正調査を数多く手掛けてきた法律事務所が、その経験を基に不正調査の進め方、それに伴う法律問題を詳細に解説したものである。

(弘文堂 2310円)

